

全学斗通信

NO.42
68.11.15

東京教育大学全学斗争委員会

情報宣伝局発行

学長・官憲の一体となつた弾圧に抗し 100名の学友で学長宅斗争を展開す！

本日全学斗総会(2時G501)に結集せよ！

△昨日学長宅斗争を100名の学友によつて展開した
△学長と官憲の一体となつた弾圧に抗して斗り抜く!!

△全学ストライキを不屈に担つてしる斗ラ学反諸君、

△昨日、全学斗に結集した学友は、学長・官憲の一体となつた弾圧にもかかわらず、学長宅大衆団交要求行動を、300名の隊列で果敢に展開したことと報告したり。調査ヒ計上一年凍結、MFA否解散、「学

△は参加の譲歩を迫りつつ、並にそれをテコに上から「異状事態の収招を」を煽動せんとしている学

△長・評議会に対し、「22日大衆団交実現」をみちとするべく、学長長期ストを背景に、攻撃的な斗りを展開してゆく、その一環として学長宅斗争を展開していふのである。これまでの学長宅斗争が、形式的

△かつ分散的な抗争斗争の枠を出なかつたことを総括し昨日の斗争は、学長の在宅を確認し、学長を我々の前にひき出させて、その場で団交の確約を迫つてやく斗争として、強調な譲意譲認をもつた大衆的

△部隊を確保し、早朝6時より行動を開始した。そして、居留守を口實にした我々の要求に対する拒否を

△断乎粉碎し、学長を我々の前にひき出したのであつた。だが学長は「回客できない」「団交はできない」などと、ネバケタことを話しつゝ、全く不当にも一

△〇〇名に及ぶ官憲を呼び、弾圧を多くの学友に加えていふのである。官憲は坐り込んで斗う学友になぐるけるの暴行を加え、斗う学友を負傷させていたのである。ふふる学長・官憲の一体となつた弾圧

△に対し、怒りをもつて抗議すると同時に、こうした弾圧に決して我々の斗争は屈することがないことを

△大学当局にみせつけてゆかねばならない。昨日の学長宅斗争は①方針の曖昧性②やに規定されて主体

△内部のすれの存在③大衆的討伐の不在によつて、限界性をもちつとも、11月大衆団交へむけての攻せ

△的面を切り崩していったのである。我々は、今后さらに全学無期ストを強固に展開し、戦術エスカレートを啓め攻せ的斗争を大衆団交実現へむけて斗いぬいていいねばならないだろう。

△今学長・評議会、またも団交拒否!! 本館占拠の報復措置を断乎實斬!! 更に、追撃を!!

△14日期限つきの大衆団交要望書に対し、学長は次のようなく交拒否の回答を我々によこしたのであつ

△1. 評議会と五学部学生代表との話し合いの用意へ学長よりの回答へある。

△2. 石記話し合いの結果、条件が整えば、評議会と全学生の話し合いも考えらる。

△3. 右記のためには、その予備措済を必要とする予備措済は、各学部代表教官と各学部代表学生とで行なう。各学部ごとの遊済を全て、全学部の措済を行なうものとする。

△4. 話し合いの内容は「紛争解決についてしてある以上すべて話し合いであつて団交ではない」。(参考)

△5. 話し合いを求める希望があつたが団交には応ぜられぬ。

△文、教、理、農学部自治会から評議会との「团交」を求める希望があつたが団交には応ぜられぬ。

△この回答に対する原則的态度を、全学反に提起し

△(1)これは、大衆団交を前提としているまいと云ふ意味に於いて事実上の拒否回答である。我々は、大衆団交を確約しない限り予備措済に応ずるわけにはいられないのだ。

△(2)「紛争解決についてしてある」というように、如何に事態を収招させるかという敵の意図が明白である。

△(3)以上はすべて話し合いであつて団交ではないと付記していることに明白に示される如く、一般的な話し合いで、団交要求を回避し、我々の動向、意見を聞き、彼らの方針を緻密化する手段として、「評議会と五学部自ら会代表との話し合い」が意図されている。このことは、我々の斗争体制の強化に対する懐柔策であり、我々としては容認できない。

△以上の点から、「五学部自治会と評議会との話し合い」などと云う形で、これまでの高圧的な態度を若干弱めたとは云ふこの回答は、事実上の拒否回答であると判断せざるを得ない。我々は、この拒否回答に報復すべく、昨日、本館を占拠したことと報告しておきたい。(ウラヘ)

「后から我々は、あらゆる戦術エスカレートをもつて、大衆団交実現へむけて大学上部に迫つていい版ばならぬいだろう。

△本日、医学部講義に詰集し、午後陽列を
うち固めよ!!△

う学友諸君が結集することを訴えたい。我々は九月以降星学斗争結成し、星学長期ストの形成をはなつてきだ。そして昨日の行動に於いても、星学的結集的をつくつてきだ。だが、斗争の長期化にともなつて、星学斗争春の再度の強化が必要とされているし、星学的な意志結集と、星学的な方針の確立をうらじて、更なる斗争の強化をはなつていひねばならない。「星学斗争化」方針の空語化を、徹底的に擁括する中から、我々の方針を確立してゆかねばならぬ。本日、全ての斗争学友諸君が「星学斗争会」に結集していこうではないか。!!

弾劾し、卑劣な、リニチ、

教養大の二、三う学友諸君!! 現在、東大斗争におして、一部諸君がなしていいる反革命武力介入!! 「全学封鎖実力阻止」を我々は徹底的に弾劾してあんなければならない。現在、東大斗争的局面は、太学当局の收拾策動!! 全学集会、「学生参加」に従ひるのみ、それにはねえとしてあくまでも、七項目要求を貫徹し、東大斗争を勝利に向けて前進させるのみその分歧点にあるのだ。そうである故に、大學当局に直撃方針が確立されていいのである。だがしかし、學園斗争のたゞごとに、執行部と大衆によつてふきとばされ、來てきた一部諸君は、九月以降「民主的」戦斗的な言葉をもつて、「左派的」的なポーズをとりつゝ、そのまゝ又えしに狂奔してきいたが、東大斗争のその最終局面にあつて、右翼的な本質をはつきり露呈させたのである。自らの党派利益から、大學当局と結託し、全学封鎖に対しては、「排他的」口実を与えるしなる全く非科学的な根拠をもつて、「全学封鎖実力阻止」なる政府・文部省の意による方針をうち出していつたのである。しかも東大ではその大衆的斗争が不可能であるとするや、「都学連行動隊」なるゲバート部隊の支援をもつて反革命的暴力介入に出たのであつた。彼らのこうした策動は、教育大の農学部の学友に対し、個人テロに等しいリニチを加えていったのである。彼らが「実力阻止」を叫ぶとき、それは國家权力、反動に對してではなく、常に斗ラ学友にむけられるのだといふことを「明確に認めし、我々は、徹底的に彼らの策動に自己批判

を迫ると同時に、柳碎してやぬにはやむなし。
「都学連行動隊」のガバルトによつて、自らの党派
的な思想が貶めするなどといふ甘い幻想をもつて、
る諸君に就しては、徹底的な対決をもつて、それを
打ち碎いていくだろうということを、我々はほつき、
り宣告しておこう。